

## 今秋デビューの「雪若丸」と「つや姫」現地検討会 管理ポイントを確認

今秋本格デビューする「雪若丸」と県産ブランド米「つや姫」の現地検討会が6月19日、酒田市内2カ所の展示ほ場で開かれました。生産者や行政、JAの関係者ら約60人が参加し、草丈や茎数、葉色などの生育状況を調査し、今後の管理ポイントについて確認し合いました。

「雪若丸」の検討会は八幡地区の前川で行われ、県酒田農業技術普及課の担当者が「生育はおおむね順調。6月20日ころの目標茎数は1㎡当たり520本で、1坪当たり70株植えでは1株25本必要」と説明し、目標茎数が確保されていない場合は必



▲「雪若丸」の本格デビューに期待をよせる小松さん

要に応じてつなぎ肥として窒素成分で10a当たり1kg程度を補充施用するよう呼び掛けました。

展示ほ場を栽培管理する生産者の小松孝悦さんは「『雪若丸』の栽培は今年で4年目。10a当たりの収量は3年連続600kg以上を確保できた。刈り取りまで丁寧な作業を行い、実りある本格デビューの秋を迎えたい」と話していました。

一方、「つや姫」の検討会は北平田地区漆曾根の展示ほ場に移動して行われ、栽培管理するつや姫マイスターの鈴木泰直さんは「活着は順調、葉色も上がってきた」と話していました。



▲「つや姫」展示ほ場で茎数や葉色などを確認する生産者たち

## 国際水準GAP取り組みが交付要件 研修会でポイント学ぶ



▲GAPについて学ぶ生産者たち

平成30年度から「国際水準GAPの実施」が環境保全型農業直接支払交付金の交付要件になったことで、酒田市農政課は6月12日から25日にかけて、市内7カ所で国際水準GAPについての研修会を開き、249人が参加しました。

同交付金を利用する生産者は、国際水準GAPに関する指導、研修を受けたうえでGAPを実施し、実施した内容は「GAP理解度・実施内容確認書」によって報告する必要があります。

6月19日には、八幡支店で研修会が行われ、環境保全型農業に取り組む生産者やJA職員な

ど約70人が参加。県酒田農業技術普及課の野仲学プロジェクト推進専門員が国際水準GAPの概要と取り組みのポイントを、酒田市農政課の担当者が「GAP理解度・実施内容確認書」について説明。確認書の課題の理解欄は直ちに記入し、実施内容は実際に取り組んだことを記入、提出期限は今年の12月末、記録簿などの関連書類は5年間の保管が必要なことなどを説明。生産者たちは目的や仕組みについて理解を深めていました。

遊佐町産業課でも同様の研修会を6月25・27日に遊佐支店で開き333人が参加しました。



▲県酒田農業技術普及課の担当者が講師を務めた